

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学統計・解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週(9月6日-12日)の新規陽性者数は、2,087人(先々週3,236人)でした。沖縄本島(周辺離島を含む)における週あたりの実効再生産数(R)は0.57(95%CrI:0.54, 0.59)であり(図1)、このうち那覇市の実効再生産数(R)は0.67(95%CrI:0.61, 0.73)でした。また、宮古は0.37(95%CrI:0.26, 0.51)、八重山は0.26(95%CrI:0.17, 0.36)でした。全県的に減少しています。

年代別推移

週あたりの推移をみると、7月以降、高齢者の占める割合は低く保たれている一方で、未成年が占める割合は上昇が続いています(図2)。年代別では、20代が383人(18%)と最多であり、10代332人(16%)、10歳未満320人(15%)と続きます。90歳以上を除き、性比では男性に多いか同じであることが特徴です(図3)。

幼年・若年層

学校別では、保育園・幼稚園児70人(先々週61人)、小学生194人(先々週311人)、中学生93人(先々週132人)、高校生64人(先々週110人)、大学生19人(先々週29人)、専門学校生28人(先々週26人)でした。専門学校生のうち外国人留学生16人(先々週4人)でした。寮生活をしていることもあり、拡がりやすい可能性があります。

保健所による疫学調査によると、小学生の新規陽性者の推定感染経路は、家庭118人(61%)、

学校12人(6%)、学童クラブ6人(3%)、その他6人(3%)、不明・調査中52人(27%)でした。中学生では、家庭52人(56%)、友人3人(3%)、学校1人(1%)、不明・調査中37人(40%)でした。高校生では、家庭18人(28%)、学校6人(9%)、その他3人(5%)、不明・調査中37人(58%)でした。小児の感染場所は家庭内が主ですが、学校内での感染も認めています。

保健所管轄区域別推移

保健所管轄区域別(7日間合計)では、北部163人(先々週308人)、中部716人(先々週1,305人)、那覇市529人(先々週672人)、南部596人(先々週748人)、宮古36人(先々週77人)、八重山37人(先々週109人)でした(図4)。

中部では、未成年が38%を占めており、保育園・幼稚園児36人(5%)、小学生77人(11%)、中学生38人(5%)など園児・生徒の占める割合が高くなっています。感染場所については、園内・学校内が15%と沖縄県全体の11%よりも高く、集団感染が発生しやすい状態にあります。

市町村別推移

市町村別(人口10万人あたり7日間合計)では、人口1万人以上の市町村について多い順に金武町211人(先々週123人)、八重瀬町203人(先々週197人)、名護市192人(先々週355人)、浦添市187人(先々週196人)、宜野湾市175人(先々週246人)でした(図5)。金武町では、未成年が63%を占めており、とくに幼児で多発して

いるようです。

渡航者関連

疫学調査で、渡航歴を認めた者は10人(0.5%)
(先々週16人)でした。内訳は、県外からの渡航者8人(先々週13人)、県外へ渡航した県民2人(先々週3人)でした。本土での流行状況、渡航者の減少も影響していると考えられます。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末(9月12日時点)で593人(9月5日時点690人)となり、酸素投与など中等症患者は489人(9月5日時点583人)と減少しています。一方、気管挿管など重症患者は25人(9月5日時点26人)と、減少が遅れています(図6)。

【今後の見通し】

県内の流行

沖縄県では、全域において新規陽性者数が減少しています。とくに、宮古、八重山は急速に減少しています。今週の新規陽性者数は1,200-1,500人と推定します。

現時点では、危惧された学校再開の影響は限定的です。ただし、部活動やスポーツイベントの再開については、各市町村の流行状況を見極めつつ慎重に判断してください。家庭内から学校へ持ち込まれ、集団感染に至るリスクは十分にあります。

また、今週末からシルバーウィークが始まることから、ふたたび渡航者が増加する可能性があります。現在、沖縄県には緊急事態宣言が出されており、本土からの渡航や離島への渡航は自粛するよう求められています。とくに、帰省は控えていただくようにしてください。

やむを得ず渡航される方には、ワクチン接種が完了していること、または渡航前検査による陰性判定を受けるよう呼び掛けてください。こうした対応が徹底されることで、来月には緊急事態宣言が解除される可能性があります。

入院患者数

先週末までは、酸素投与が必要な中等症患者であっても在宅での診療を余儀なくされていましたが、おおむね入院での診療が可能になってきています。第5波において、宿泊療養施設(ホテル)の医療対応能力が向上したことも、新規陽性者数に比して病床に余力が生じている要因と考えられます。

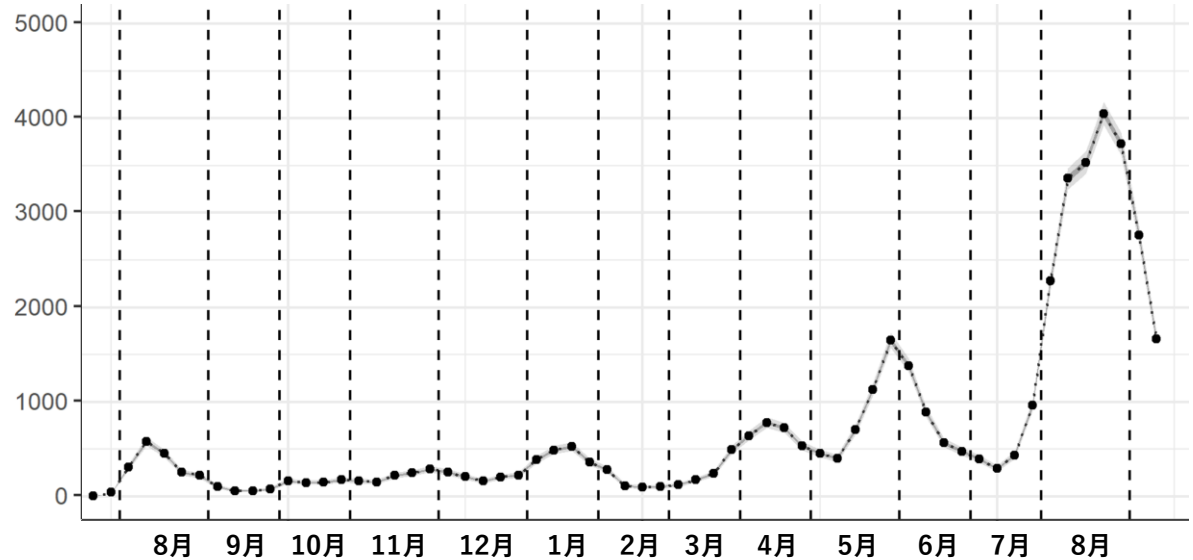
今週末までに入院患者数は400-500人へと減少が見込まれます。気管挿管等を必要とする重症患者数は10-20人に減少すると推定します(図7)。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数 (北部、中部、南部)

陽性者数 (確定日)

週あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数

週あたり推定値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

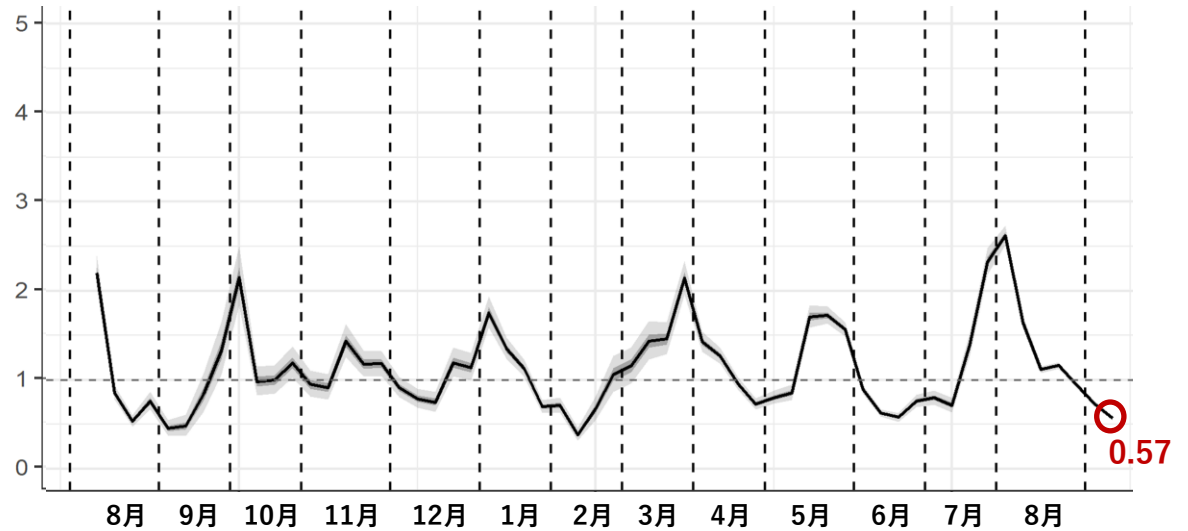


図2 年齢階級別陽性者数の推移 (週あたり)

7/31 9/5
緊急事態宣言

12/14 1/19 2/28 緊急特別対策 緊急事態宣言
3/29 4/12 5/23 緊急特別対策 まん延防止等重点措置 緊急事態宣言

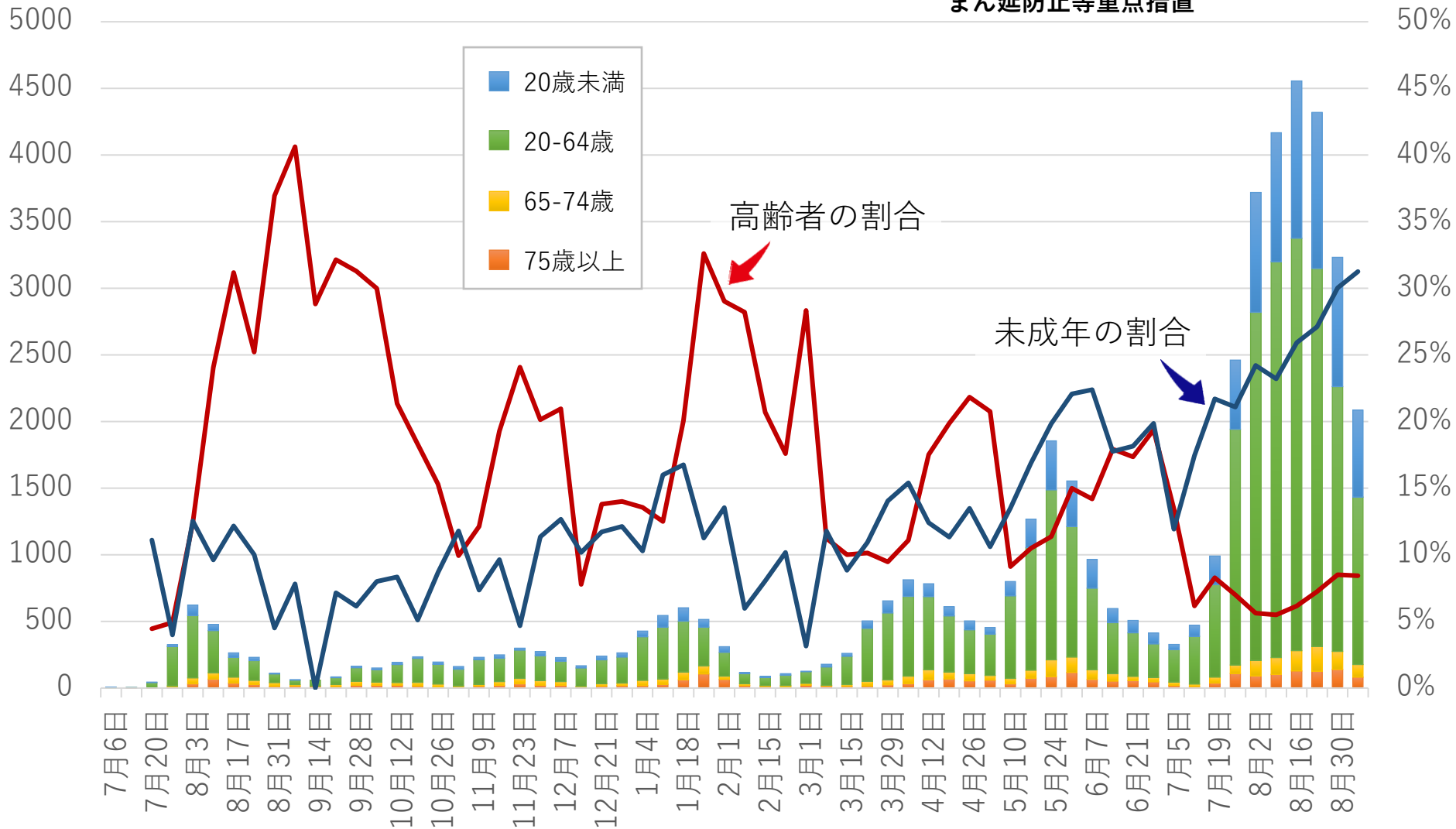


図3 沖縄県における性年齢階級別症例数 (9月6日~12日)

n=2,085 (不明の2人を除く)

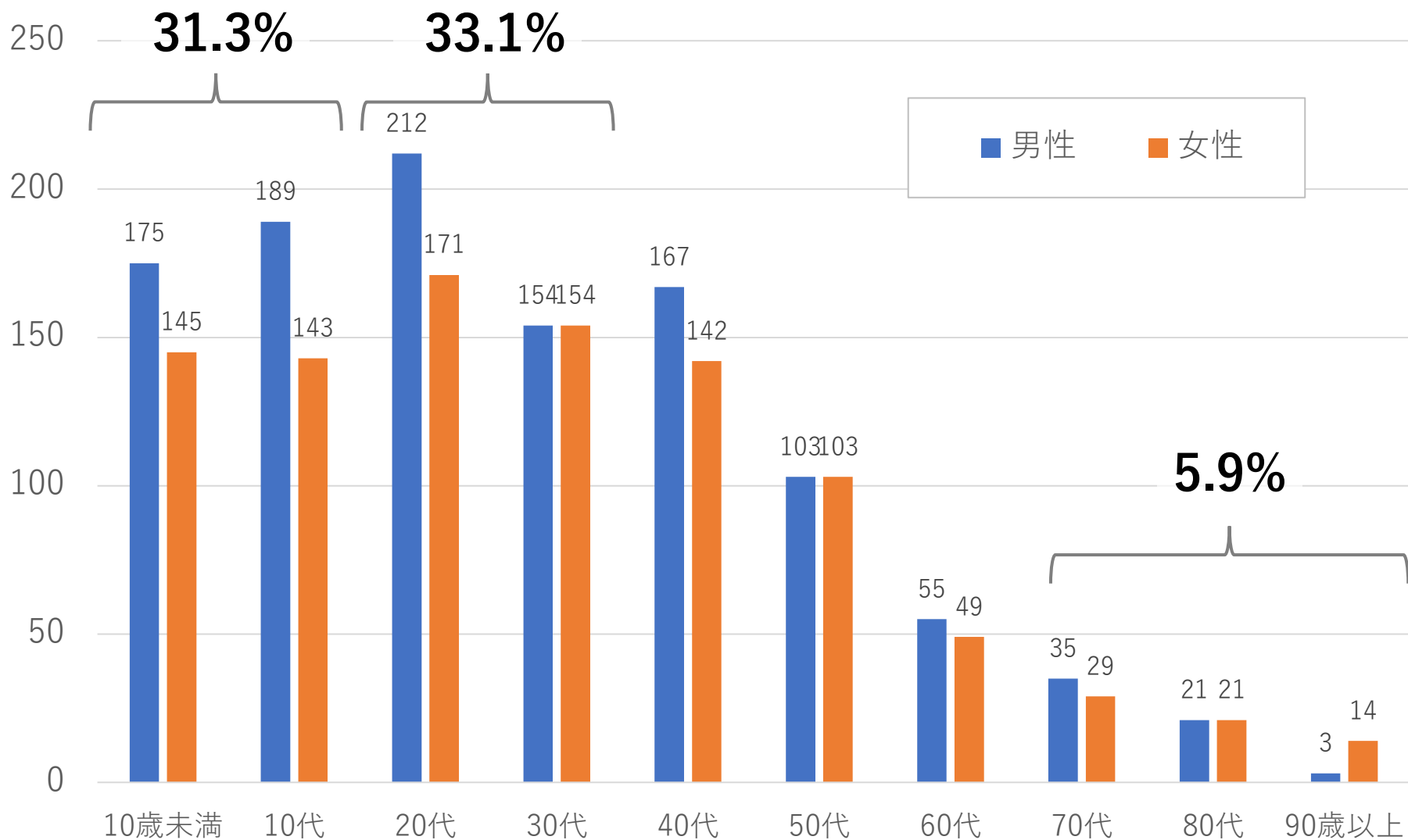


図4 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間合計

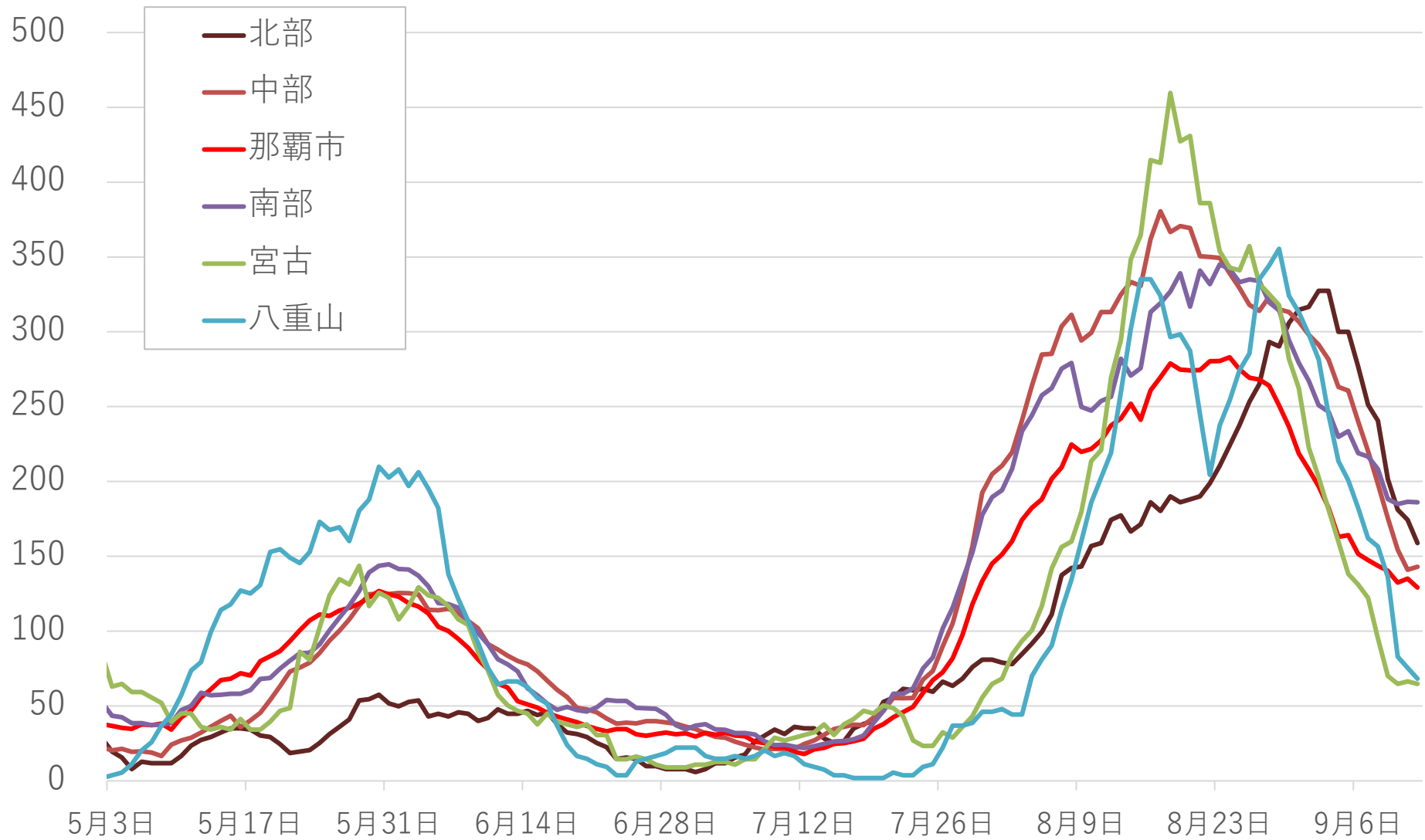


図5 市町村別に見る新規陽性者数（人口1万人以上）

10万人あたり7日間合計について先週の上位10市町村

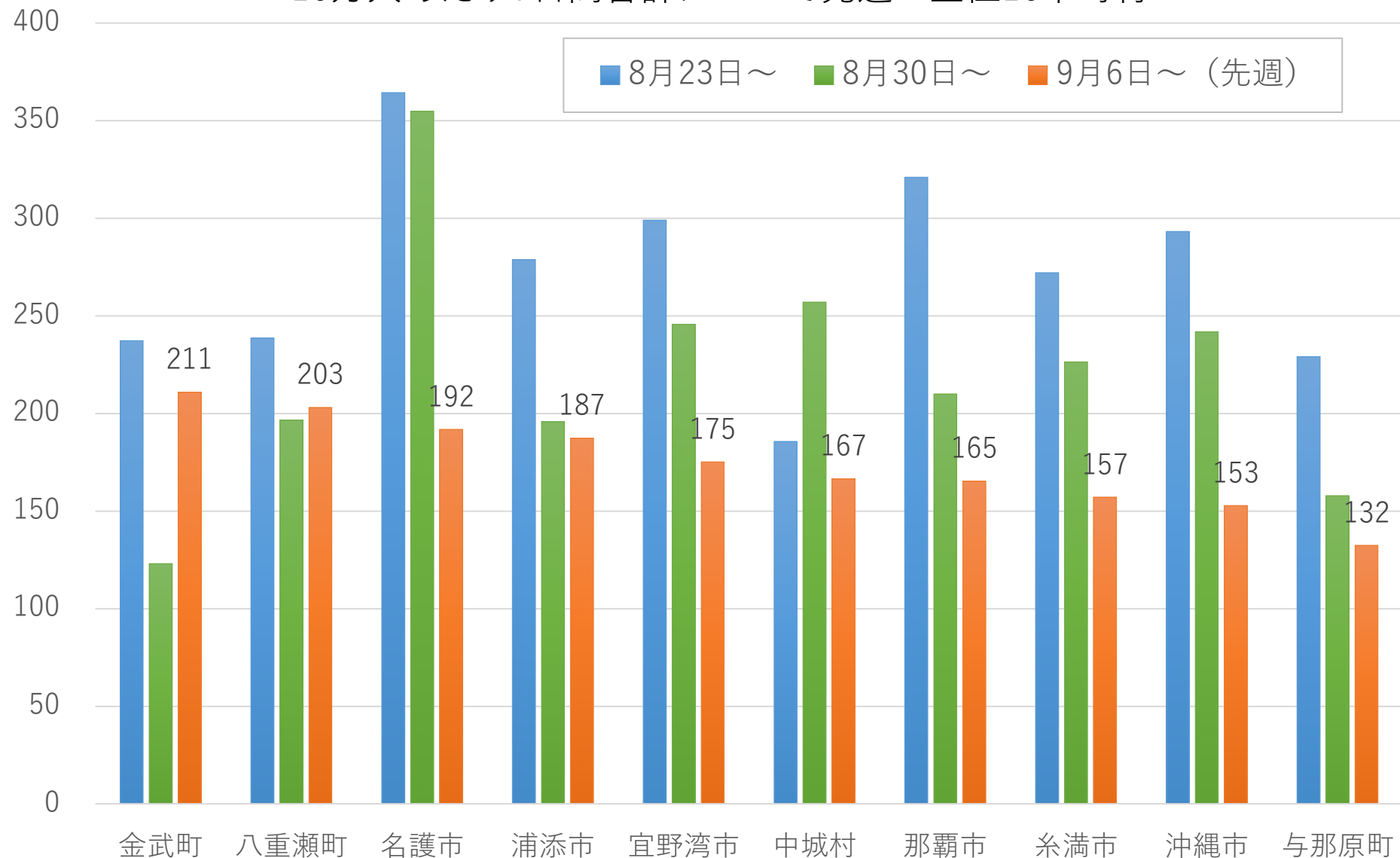


図6 新規陽性者数および重症度別入院患者数

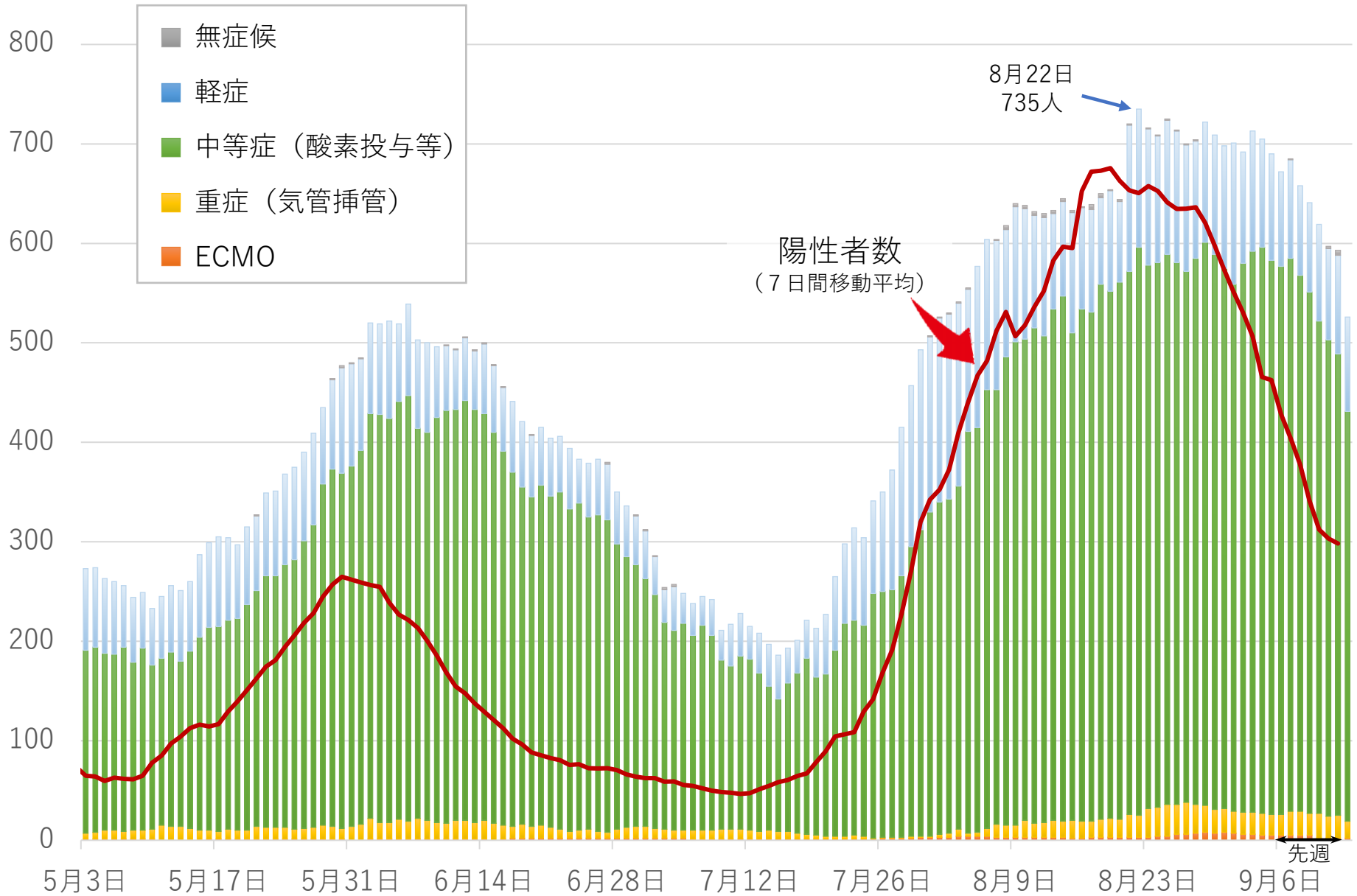


図7 今後1週間（9月13日-19日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数※			重症患者数※		
	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
北部	89	179	360	77	85	99	2.2	2.5	3.2
中部	349	703	1,416	150	182	233	7.5	8.8	10.9
那覇市	275	553	1,114	147	172	213	11.5	12.4	13.9
南部	294	592	1,192	132	164	216	3.7	5.1	7.2
宮古	18	37	75	7	9	12	0.3	0.4	0.5
八重山	20	41	83	18	20	24	0.1	0.2	0.3
合計	1,045	2,105	4,239	531	632	797	25	29	36

※ 9月19日時点の見込み数